

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○: イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるようにカナで奇跡を行いました。(×: カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

週課	第二年 第一二課 第一週
単元	クリスマス
テーマ	キリスト降誕の備え
タイトル	ザカリヤとエリサベツ
テキスト	ルカ1:5-25、57-80
参照箇所	イザヤ40:3-5、マラキ4:5-6、マタイ3:1-17、マルコ1:1-15、ヨハネ1:15-39
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マルコ1:3

AG 日曜学校教案参照箇所
小学科下級2巻-主題2-課1 幼稚科2巻-主題2-課1

□導入

例1: 神さまは、いつごろから人間を罪から救う計画をたてていらっしゃったか知っていますか？ 私たちも何かやりたいことがあったら、計画をたてて、少しずつ準備をしていきますね。神さまは、どんな風に、イエスさまをこの世に遣わす準備を始めてくださったのでしょうか？

例2: いよいよアドベント(待降節)が始まります。教会では、イエスさまのお生まれを年ごとに深く感謝するために、クランツのろうそくに火をともしなどして備えます。今日は、神さまが約2千年前にイエスさまを遣わしになる前に、どんな準備をされたのかというお話をします。

□ポイント1 ザカリヤとエリサベツという老夫婦がいました(5-10節)

ザカリヤとエリサベツは敬虔な老夫婦でした。しかし、ふたりの間には子どもがなく、すでに年を取っていました。ザカリヤは祭司でしたので、律法を教えることや民を祝福するお祈りをするのが仕事でした。また祭司は、24の組に分かれていて、組ごとに1週間の当番でエルサレム神殿務め(動物のいけにえ・穀物のささげ物など)をしました。ザカリヤの組が当番のときに、香をたく役が、クジによって彼に割り当てられました。香は祭司によって神殿の朝と夕の礼拝でたかれました。

☞ ヘロデ: ここでは、ヘロデ大王のことで、BC37年からAD4年までユダヤの国を統治しました。後に幼児であったイエスを殺そうとしました(マタイ2章)。

□ポイント2 ザカリヤに御使いのお告げがあり、エリサベツはみごもりました(11-25節)

「大ぜいの民」が集まる午後3時の祈りの時間に、ザカリヤは香をたく役をするため聖所の中に入りました。聖所に入れるのは香をたく祭司1人だけで、「香壇」は聖所と至聖所の間幕の前にありました。ここで登場するガブリエルは、ダニエル書8-9章にも出てくる天使です。御使いは、ザカリヤの妻エリサベツが男の子を生むと告げます。ヨハネという名は「主は恵み深い(God has been gracious)」の意味です。ヨハネは、神に聖別された人です。救いの歴史において重要な役割をはたします。それは、酒を一切飲まず(レビ10:9、士師記13:14)、救いに関する聖霊の賜物を、生まれる前から受けていました(イザヤ49:5)。彼の使命は、やがて来る主の日に先立ってイスラエルを神に立ち返らせ、整えられた民を主のために用意することです(この時代イスラエルの民の心は神から遠く離れていました)。「エリヤの霊と力」については、Ⅱ列王記2:9-15、マラキ4:5-6を読んでください。

ザカリヤにとって、御使いのことばは、確信を持つためには十分ではありませんでした。彼は、自分も妻も年をとりすぎているので、子どもをもうけるのは不可能だと思ったのです。しかしそれは、神の使いであるガブリエルに対する不信、ひいては神に対する不信仰でした。知識と理性が邪魔をして、純粋な信仰がもてなかったのです。彼がものをいえなくなったのは—(1)不信にたいする罰、(2)また不信を乗り越えるための試練、(3)そして適切なときが来るまで他の人にむやみにこの件を知らせないための手

段一と考えられます。やがて外にいた人々は心配しはじめました。ザカリヤは礼拝の終わりに、人々の前に出てきて終わりの祝祷をするはずなのに、なかなか出てこないからです。ついにザカリヤが姿を現したとき、人々は神の顕現があったにちがいないと推察しました。宮での奉仕が終わると、ザカリヤは家に帰り、やがて妻は妊娠しました(注:マリヤの場合とは違い、ザカリヤとエリサベツの夫婦の関係による妊娠)。エリサベツは高齢だったので、彼女が妊娠したと言ってもだれも信じないでしょう。またその間、無理をして動いても危ないので、誰が見ても妊娠したことが分かるようになるまで、家にこもっていました。

□ポイント3 救い主がいっしょる前に準備をするバプテスマのヨハネが生まれました(57-80節)

エリサベツにとって、奇跡的な懐妊のよろこびは、安全な出産を終えて最高潮に達したことでしょう。律法を遵守し、ヨハネは8日目に割礼をうけました(創世記17:11-12、レビ記12:3)。割礼の日が名付けの日となるが多かったようです。近所の人々や親戚は、弱っているザカリヤを励まそうとして、子どもに彼の名前をつけるように勧めたのでしょう。しかしエリサベツはそれはできないと主張しました。彼女は、この子に神の指定した名前をつけなければならないと信じていました。名前はその人の人生をあらわすものですから、神の定めた人生を歩むために、その名前をつけることは重要だったのです。そこで人々はザカリヤに、何と言う名前をつけるつもりかと聞いてみました。ザカリヤはかつて御使いの言葉に不信を持って応えましたが、この時は確信を持って「彼の名はヨハネ」と書きました。周りの人々は、理由が分からないので、ザカリヤとエリサベツの力強い主張に驚いたことでしょう。御使いのことばが、実現となったとき、ザカリヤはものが言えない状態(不信の罰)から解放されました。そこでザカリヤは、新たに得た声をもって、神をほめたたえました。まったく妊娠するはずのない人が子どもを生んだこと、ザカリヤが即座にしゃべれるようになったことなどを見た人たちは、神が生きてはたらかれていることを感じ、ただ神を恐れました。そしてそれは、ユダヤの山地全体へとロコミで伝わっていきました。人々は、このようにして生まれた子はどんな運命を生きるのだろうかと思い巡らしました。ザカリヤが話せるようになったときの賛美は物語から独立して68節以降に記されています。

☞ ザカリヤの賛歌の内容: 神さまが約束してくださった救いの計画を信じる信仰、救い・神のあわれみへの感謝、ヨハネの役割について(来るべきメシヤのために準備をする・神の恵みとあわれみを説き罪の赦しを宣言する)など。69節「救いの角」の「角」は旧約では強さやパワーを意味します(第二サムエル記2:3、詩篇132:17)。

□結論 神さまは、ザカリヤとエリサベツを通して、救い主イエスさまの誕生の準備をされました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

もうすぐクリスマスです。あなたの心は、イエスさまをお迎えする準備ができていますか?この1ヶ月、私たちの罪のために生まれてくださったイエスさまに感謝しながらすごしましょう。ヨハネは、「救い主が来られようとしています。罪を悔い改めて、イエスさまにお会いする準備をしなさい。」と伝える人になりました。あなたも、心の中に残っている罪を告白して、キレイな心で、もう一度イエスさまをお迎えしましょう。あなたの心の中の、真ん中の部屋にイエスさまをお迎えできるように、余計なものは片付けましょう(ゲーム、洋服、兄弟ゲンカ、悪口などで部屋がちらかっていませんか?)。心の真ん中にイエスさまを向かえ、自己中心から神さま中心になる準備をしていきましょう。クリスマスまで毎日お祈りをしよう!

教 師 ノ ー ト

週課	第二年 第一二課 第二週
単元	クリスマス
テーマ	処女降誕
タイトル	マリヤへの御告げ
テキスト	ルカ1:26-56
参照箇所	ルカ1:39-55、マタイ1:18-25、イザヤ7:14,9:6-7
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	第二コリント5:21

AG 日曜学校教案参照箇所

小学科下級1巻-主題5-課2 小学科下級2巻-主題5-課2 幼稚科2巻-主題2-課2
幼稚科1巻-主題2-課1

□導入

例:創世記のメッセージを思い出そう。アダム以来、どんな人間も罪を持っているということを学びました。その罪から救うために来てくださったイエスさまですが、あれ? イエスさまは神さまだけ人間...ということとは...罪人?? そんなわけないよね。じゃあイエスさまは、どんな特別な生まれ方をされたんだろう??

マリヤへの「受胎告知」の箇所は、メッセンジャーにとっても、子どもたちにとっても、既に耳慣れたストーリーとなっているかもしれません。紙芝居・絵本・劇・ビデオなどを用い、さらに効果的に語るよう準備しましょう。ただし、力強いメッセージをするために最も重要なのは、(視覚教材ではなく)メッセンジャーが「処女降誕」について、確信と感動をもっていることです。

では、「処女降誕」にはどんな意味があるのでしょうか?

イエスの降誕によって、神の救いの計画は、いよいよ地上でスタートします。そしてその第1歩が、「処女降誕(聖霊によって処女マリヤが神の子をみごもる)」という、人間には到底不可能な、超自然の方法だったのです。つまり、救いの計画は、はじめの1歩から、神ご自身が、神にしかできない方法で実現してくださったのです。私たちの救いは、まったく神の業です。人間は何もしていません。救いは、神からの一方的な恵みの賜物なのです。(確かにマリヤの従順な信仰が用いられましたが、神のあわれみと、聖霊の力が働かなければ、何も始まりませんでした。)「救い」は神から来たのです。メッセンジャーは、テキストをよく読み、神に不可能なことはひとつもないこと、人間には絶対にできない「救い」を、神ご自身が実現してくださったことをもう一度確信しましょう!そして、それは、神の一方的なあわれみの愛のゆえであることを思い起こし、感動をもって語りましょう! 処女マリヤから生まれたイエスは、100%人間で100%神です。100%人間だからこそ、イエスは私たちと同じ苦しみを味わい、100%神であるイエスが十字架にかかってくくださったからこそ、全人類の罪が赦されたのです。

□ポイント1 御使いが、まだ結婚していないマリヤに「あなたは男の子を産みます」と告げました(26-34節)

御使いガブリエル(ダニエル8:16,9:21、ルカ1:19にも登場)がマリヤに現れました。マリヤが「処女」であること、婚約者ヨセフがダビデの子孫であることは、重要なポイントですので、26・27節の短い紹介の中でしっかりと強調されています。「おめでとう」は、妊娠の祝いではなく、救いのおとずれを喜ぶあいさつです。誕生日でも宝くじが当たったわけでもないのに、突然「おめでとう」と言われたら、だれでも「何のこと?」と戸惑うでしょう。御使いはマリヤの困惑を察し、続けて説明をします。ダビデの家系から出て、イスラエルを治めるというのは、ユダヤ人にとって旧約聖書の救い主のイメージにピッタリです(第二サムエル7:12-16、詩篇89、イザヤ9:7、エゼキエル34:23-24、ホセヤ3-5など)。またここでは

イエスの性質が、父なる神との関係において強調されています。イエスは神(いと高き方)の子であるから、救い主としての役割を果たすことができるのです。

㊦ マリヤは御使いからの受胎告知に対して「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに」と応えます。これは、ザカリヤが御使いの知らせを信じられず、しるしを求めた応答(18節)とは違うと考えた方がよいでしょう。マリヤは信じなかったのではなく、「ではどうやって処女である私が子どもを生むのですか?」と、詳細を理解するために、自然な応答をしたのでしょう。

㊦ いいなずけ: 結婚を約束した相手のこと。現代の一般的な「婚約」よりも正式で、浮気をしたら罰をあたえられ(申命記22:23-29)、婚約解消の際には書面による手続きが必要でした。このときマリヤは10代半ばだったと考えられています。

□ポイント2 聖霊の力で、マリヤは神の子を身ごもりました(35-37節)

「どうしてそのようなことがありえましょう?」の答えは…「聖霊がマリヤの上に臨み、神の力がマリヤをおおうことによってイエスは生まれる(35節)」です。イエスは人間の結婚によってマリヤの胎に宿ったのではありません。神が、聖霊の力によって与えた子だから、「それゆえ」イエスは神の子なのです(35節)。イエスは人間ですが、同時に罪を犯さない、傷のない神の子です(第二コリント5:21、ヘブル7:26)。神の聖い御霊の力が完全に働いて、イエスを守り・聖別したので、アダムの墮落の本性が、マリヤからイエスに受け継がれなかったのです。神に不可能なことはひとつもありません! 神は、人間の力で絶対に不可能である「救い」を、まったく神のわざ(まさに神ワザ)で実現してくださったのです。

□ポイント3 マリヤは、神さまのみこころを受け入れました(38-56節)

神はエリサベツの妊娠を、マリヤへの「しるし」として既に備えておられました。彼女らは親戚同士でした。マリヤは従順かつ謙遜に、主のみこころを受け入れました。私たちも、このマリヤの信仰と献身を見習うべきです。マリヤがエリサベツに会いに行ったとき、エリサベツは聖霊に満たされました。胎児(ヨハネ)が「おどった」のも聖霊の感動によるものでしょう。「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう(45節)。」とありますが、本当にそのとおりです、アーメン!

㊦ マリヤの賛歌(46-55節)は「マグニフィカト」(ラテン語:あがめる)とよばれ、非常に有名です。「卑しいはしため」・「低い者」に「大きな」恵みをあたえ、「高く引き上げ」てくださる主の救いをほめたたえています。(マリヤには、救い主の母として選ばれたことに対するおごり・高ぶりが一切見受けられません。)

□結論 イエスさまは、結婚していないマリヤから、聖霊によって生まれた、完全な神の御子であり、聖く罪のないお方です

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1: イエスさまは、私たちを罪から救うために、人間のかたちになって、この世に来て下さいました。私たちの罪が完全に赦されるためには、罪のない完全な神の子の犠牲が必要でした。あなたは、聖霊の力によって、イエスさまが生まれたことを信じますか? 本当の神の御子が、あなたのために十字架にかかって死んでくださったことを信じますか? あなたの命を救うために、神さまがこんなにすばらしいクリスマスの計画をし、その御子の命をプレゼントしてくださったことに感謝していますか?

例2: 神さまには不可能なことはひとつもありません。マリヤは、信じられないようなことを、素直に信じて受け入れました。あなたは苦手なこと(とびばこ・算数など)を「そんなのできないよお～」とあきらめていませんか? あなたに大きなことをしてくださる神さまを信じよう! また、病気のためにいのるときなど、神さまに不可能はない! と信じて祈りましょう。

教師ノート

週課	第二年 第一二課 第三週
単元	クリスマス
テーマ	キリスト降誕
タイトル	救い主の誕生
テキスト	ルカ2:1-20
参照箇所	ミカ5:2、マタイ2:4-6
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ルカ2:11
AG 日曜学校教案参照箇所	幼稚科1巻-主題2-課2 幼稚科1巻-主題2-課3 幼稚科1巻-主題2-課4 小学科上級1巻-主題3-課1 小学科上級1巻-主題5-課2
□導入	<p>例1:あなたは、自分が生まれた場所を知っていますか?自分のこどもを生むならどこで生みたいですか?生まれたら、だれに一番に伝えますか?</p> <p>㊦いよいよ、イエスの誕生シーンのメッセージです。キリスト誕生の様子を説明するだけでなく、以下のポイントにも注意しましょう。(1)神が人間の歴史にはたらいで、ミカ5:2の預言成就されたこと(1-5節)、(2)汚い家畜小屋でのご降誕は、キリストが私たちの罪の心に生まれてくださったことを象徴的に表していること(6-7節)、(3)主は「この民全体のためのすばらしい喜び」を伝える者として、普通の羊飼いを選ばれたこと(8-20節)。</p> <p>㊦紙芝居などの視覚教材を有効に用いましょう。また、CS スタッフで簡単なスキットを楽しく演じてみましょう。またそのスキットに即興で子どもたちを出演させると、自然にメッセージの世界に入り込む体験ができ、非常に効果的です。</p>
□ポイント1 マリヤとヨセフは住民登録のために、ベツレヘムへ向かいました(1-5節)	<p>ルカは、キリストの降誕の記事を、人間の歴史の中のリアルな出来事として記録しています。住民登録について、それを命じたのがアウグスト(ローマ帝国初代皇帝ガイウス・オクタヴィアヌス)の尊称、前27—紀元14年在位)であり、その時期を「クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録」と詳細に至って示しています。その命により、自分の先祖の町に帰って戸籍を登録しなければなりません。ベツレヘムはエルサレムの南方8キロの町で、ヨセフの先祖・ダビデが生まれたところです(Iサム17:12)。妊娠中のマリヤにとっては大変な移動でしたが(ナザレから約136キロ)、シリアでは女性にも人頭税が課せられたため、マリヤもこの旅に同行しなければなりません。神は、このような歴史上のすべてのものを用いて、約700年前に書かれたミカ書5:2の預言を成就されたのです(ローマ皇帝アウグストさえも、神の前には、キリストがダビデの町で生まれるという預言成就の道具として使われたのです)。すべては偶然ではありません、この世界を支配しておられる神のなせるわざです。</p>
□ポイント2 救い主イエスさまは、家畜小屋の飼葉おけにお生まれになりました(6-7節)	<p>町の宿屋はどこもいっぱいだったので、マリヤとヨセフは家畜小屋に泊まりました。その夜、神の時が満ちて、マリヤは男の子を産みました。マリヤとヨセフは、お生まれになった救い主を、飼葉おけに寝かせました(注)。神の子であるイエスは、天国で神の右の座につくべきお方です。そのお方が地上に来られるとしたら、王宮のベッドや皇室専門の産婦人科病院で生まれるのがふさわしいと思いませんか?「キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分</p>

を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。」(ピリピ2:6-9)。「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです」(IIコリント8:9)。降誕のストーリーは、私たちの汚い心(罪)の中に、イエスが来て下さったことを、まさに象徴しています。

注)家畜小屋と飼葉おけ:テキストに記載されていないので詳しい状況は不明です。住民登録は、エルサレム巡礼祭の旅の機会に際して行なわれたと考えられ、そうだとすると、そのために宿屋が満室だったのかもしれませんが。イスラエルの家屋は、家全体が1つの部屋で、その同じ屋根の下に仕切りを設けて家畜を飼うというのが一般的でした。「宿屋には彼らのいる場所がなかった」ので、マリヤとヨセフはそのような一般の農家に、住人と一緒に泊まっていたのかもしれませんが。1つの狭い部屋にたくさんの人が寝ていたので、イエスが生まれたとき、もう床にはスペースがなく、飼葉おけ(石製)に寝かせるしかなかったとも考えられます。またその家は、洞窟のような場所だったという説もあります。いろいろな説はありますが、すべて詳細は不明です。ですから、このアウトラインでは、(紙芝居などに描かれているように)「宿はいっぱいだったが、やっとの思いで外の家畜小屋に泊まらせてもらうことができた」というイメージでお話しするようにお勧めします。小学生に、わかりやすく真理が伝わる方法でお話すべきです。

□ポイント3 御使いが、救い主誕生の知らせを、羊飼いたちに知らせました(8-20節)

羊飼いは、昼間は羊を放牧し、夜は囲いに入れてその番をしました(羊飼いだっ頃のダビデも同様の生活だった)。現代のように電灯のない闇の中に、主の栄光が照らしました。主は「この民全体のためのすばらしい喜び」を伝える者として、一介の羊飼いを選ばれたのです。そのよき知らせとは11~12節の内容です。「いと高きお方」がまったく低い「飼葉おけに寝ておられる」という驚くべき知らせです。その知らせが告げられると、突然「多くの天の軍勢」が現われました。羊飼いたちは、この知らせを疑わず「主が知らせてくださった」と確信しました。彼らはベツレヘムの町にある無数の飼葉おけから、キリストを見つけ出そうと闇の中を急いで出かけます。彼らは、イエスを探し当て、マリヤとヨセフやその家にいた人に、御使いの知らせを告げました。「羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った」(20節)。世界ではじめのクリスマスの夜に響いたのは、羊飼いの純粋な賛美でした。

☞御使いは11節で、「みどりご」を「救い主」・「キリスト」・「主」と三つの呼び名(性質)で表現しています。

☞天の軍勢の賛歌は、「いと高き所に、栄光が」のラテン語訳から「グロリヤ・イン・エクセルシス」と呼ばれています。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1:私たちの汚い心にイエスさまを迎え入れ、本当のクリスマスを迎えましょう。約2千年前のクリスマスに、「いと高きお方」は、身分を低くして飼葉おけに生まれてくださいました。それと同じように、イエスさまは必ずあなたの心に来てくださいます。心の罪をすべて告白し、あなたの心の真ん中にイエスさまを迎え入れることが、本当のクリスマスです。信じてお祈りしましょう。

例2:イエスさまは、すべての人のために、生まれてくださいました。そして、福音を伝えるのも、羊飼いなような「フツー(普通)」の人を選んでくださいました。あなたも、お友だちや、家族、すべての人を愛して、福音を伝える人になりたいと思いませんか!

教師ノート

週課	第二年 第一二課 第四週
単元	クリスマス
テーマ	守られた救い主
タイトル	博士たちとヘロデ王
テキスト	マタイ2:1-23
参照箇所	エレミヤ31:15、ホセア11:1
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	詩篇121:7
AG 日曜学校教案参照箇所	小学科上級3巻-主題6-課2 小学科下級2巻-主題2-課2 幼稚科1巻-主題2-課5 幼稚科2巻-主題2-課5 幼稚科2巻-主題2-課6
□導入	例: イエスさまがまだ赤ちゃんの時、イエスさまを礼拝するために遠くからやってくる人たちもいれば、なんとイエスさまを殺そうとして近づいてくる人もいました。
□ポイント1 博士たちは、救い主を礼拝するために、エルサレムへ行きました(1-8節)	イエスの誕生は、ヘロデ王の時代(紀元前37-紀元前4年)のことでした(注)。東の国の博士たちが、ユダヤ人の王の誕生を示す星を見たといって、エルサレムにやってきました。そのことが政治的には「ユダヤの王」の地位にあったヘロデに伝わると、彼は恐れ惑いました。なぜなら、ユダヤ人待望の王なるメシヤが現れたら、ヘロデはユダヤ人の手によって、王座から引きずり降ろされることは間違いないと考えたからです。逆に、エルサレムの人々が恐れたのは、ヘロデが狂暴な手段で王座を守ろうとすることを予測したからでしょう。ヘロデは、イエスを探し当てようとし、祭司長と学者を全員集めるとは、相当必死だった証拠です。キリスト誕生の地名をつきとめたヘロデは、今度は誕生の時期(イエスの年齢)を知るために、いつ星が現れたのかを、ひそかに博士たちから聞き出しました。そして、表向きはキリスト誕生を祝うふりをして博士らをだまし、イエスのいる場所を探し当てようとした。ヘロデは、悪賢く・残忍な王でした。
☞博士: 占星学者のこと。占いのこともしたはずですが、ここに出てくる博士たちは、魔術師のような人ではなく、研究者・賢者のイメージです。(ただし彼らは、外国人であるため、救い主がベツレヘムに生まれるという預言さえ知らなかったようです。)	
☞占星術について: この星が実際にどのような星であったかについて、いろいろな説がありますが、詳細は不明です。おそらく、特別な星(もしくはその動き)を観測した博士たちが、その意味を研究しているうちに、ユダヤ人のメシヤと関係があると考えたのでしょう。この星は、博士たちをイエスのところに導きま(9節)。しかし、聖書は占いを認めていません(申命記4:19、18:9-14など)。ですから、この星は、神がみこころによって、博士たちを導くために特別に備えられたものだったのでしょう。	
□ポイント2 博士たちは、イエスさまを礼拝し、ささげものをしました(9-12節)	再び星が現れて、博士たちを、イエスのところに導きました。博士たちは、ひれ伏してキリストを拝みました。また、黄金・乳香(植物の樹脂からつくる香油、神にささげる薫香として使う)、没薬(植物の樹脂からつくる香料、医薬・死体の防腐剤として使う)をささげました。これらは王または神にささげるのにふさわしい、高価なものでした。驚くべきことに、外国から来た博士たち(異邦人・聖書をよく知らない)であるにもかかわらず、態度においても献げものにおいても、自分たちにできる最高の礼拝をささげたと見え

す。

博士たちは、ヘロデの悪意を知らなかったので、イエスの居場所が分かったら報告する約束をしていました(8-9節)。しかし、「夢でヘロデのところには戻るなという戒めを受けたので」、ヘロデを避けて、自分の国に帰りました。はっきりとした記載はありませんが、これも神の守りであることは間違いありません。

□ポイント3 神さまは、イエスさまをヘロデ王の殺意の手から守られました(13-23節)

神は御使いを通して、ヘロデがたくらんでいた「キリスト殺害計画」について、明確にヨセフに知らせてくださいました。そして、エジプトに逃れるようにと指示されました。ヨセフとマリヤとイエスは、ヘロデが死ぬまでエジプトに住みました。一方ヘロデは、博士たちがイエスの居所を報告しなかったので、怒り狂って、残酷で卑劣な虐殺を実行します。ベツレヘムとその近辺の2歳以下の男児を無差別に殺してしまったのです。そうすれば、イエスを殺すことができると考えたのですが、イエスは既にエジプトに逃れていました。神がはたらいてくださって、イエスの命は守られたのです。神の救いの計画をだれも止めることはできないのです(エジプトでの隷属もバビロン捕囚があっても、神の救いの計画は進んだのと同じです)。ヘロデのたくらみは、神によって打ち砕かれました。

☞ルカでは、ヨセフ・マリヤ・イエスはベツレヘムからエルサレムに行き、ナザレに戻ったと書かれています(2:39)。しかし、マタイでは、博士たちが訪れたとき、イエスはまだベツレヘムにおり、そこからエジプトに逃れたことになっています。

□結論 神さまは、幼い救い主を危険からお守りになりました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1 あなたを愛し、救ってくださったイエスさまを、博士たちのように、心から礼拝しましょう。宝の箱をあけてささげものをした博士たちのように、あなたの心の箱をあけて、感謝や悲しみや罪の悔い改め、すべてをささげる礼拝者となりましょう。ユダヤの祭司長や学者も、聖書を調べて、ベツレヘムでキリストが生まれたことを確認したはずなのに、だれもイエスさまを礼拝しに行くことをしませんでした。ユダヤ人の方が、イエスさまについての知識や、礼拝に通っている年月は相当長かったです。それなのに、礼拝しに行ったのは、異邦人である博士たちでした。神さまは、知識や年月ではなく(それも大切ですが)、今この時、精一杯の礼拝をささげることを喜んでくださいます。あなたの心が、最高の礼拝をささげることができるよう。

例2 神さまは、イエスさまを恐ろしいヘロデの陰謀から守ってくださいました。それは、あなたを救う計画を実現させるためでした。今日は一年間の最後の日曜日です。今年1年も、不思議な力であなたを事故や病気や心の傷から守ってくださった神さまに、心からの感謝をささげましょう。私たちは、自分の力で生きているように感じてしまいます。しかし、見えないところで、神さまが私たちの人生に働いて、守ってくださっているのです。あなたは、感謝することをいくつ挙げることができますか？どんな小さい出来事も、恵みを数えて、主が良くして下さったことを、何一つ忘れないようにしましょう。

教 師 ノ ー ト

週課	第二年 第一二課 第五週
単元	クリスマス
テーマ	神の愛
タイトル	クリスマスの愛
テキスト	第一ヨハネ4:9-11
参照箇所	ヨハネ3:16, 13:34、ローマ5:6-8、第一ヨハネ4:7-8, 12-13
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	第一ヨハネ4:9

AG 日曜学校教案参照箇所

ポイント1と2を特に強調することによって、クリスマスの子ども集会における伝道的なメッセージ、またはまだしっかり信仰告白をしていないおともだちを決心に導くメッセージを語るすることができます。またクリスチャンのおともだちにはポイント3を強調し、キリストの愛に答えて互いに愛し合う決心へと導きましょう。

□導入 興味を起す質問をしましょう。

例1:クリスマスは、パーティーやプレゼントだけを楽しむ日ではありません。本当のクリスマスの意味とはいったい何でしょうか？

例2:いつも教会に来ているお友だちは、クリスマスは「イエスさまのご降誕」をお祝いする日だということを、よく知っているでしょう。でも、それは私たちのお誕生日をお祝いするのと同じ意味でしょうか？

□ポイント1 クリスマスは、神さまが私たちに永遠の命を得させるために、イエスさまを送ってくださった日です(9節)

9節にあるように、神が「そのひとり子を世に遣わし」てくださったのが、クリスマスです。そして、そのクリスマス(キリストの降誕)は、「私たちに命を得させ」るためと書いてあります。つまり、クリスマスがなかったら、私たちに命はないのです。クリスマスは、サンタクロースの日でも、単なるイエスの誕生パーティーの日でもありません。神が私たちに、永遠の命をくださるために、そのひとり子をこの世に遣わしてくださったことを感謝する日です。

☞「キリストの受肉」を、はじめて教会に来るお友だちに伝えるための例話:あなたは、アリさんたちが一列になって進んでいるのを見てるとします。あなたは、その先にアリ地獄があるのを知っています。「おい、そっちに行ったら地獄だよ」と、あなたがどんなに大声を出しても、アリさんたちは理解できません。アリさんたちを助けるには、あなたが人間として生きることをあきらめ、アリになって、救われる方法を伝えるしかありません。あなたは、アリの子として生まれ変わってまで、彼らを地獄行きから救いたいと思いませんか？

神の子(完全に聖い)が人間の子(不完全で罪深い)になるのは、人間がアリの身分になるよりももっと、ひどい屈辱的(ゴキブリになるくらい?)な格下げです。それでも神は、私たちが地獄に行かないように、イエスをこの世に遣わしてくださったのです。約2千年前のクリスマスに、こうして神の大きな愛が示されたのです。おかげで私たちは、いのち(永遠の命)を持つことができましたのです。

□ポイント2 私たちが神さまを愛したのでなく、神さまの方から私たちを愛し、御子を遣わしてくださいました(10節)

では、永遠の命とは何でしょうか？ 私たち人間はみんな罪(=汚い心)を持っています。心が汚いままだと、天国には入れません。しかし、きれいな心になれば、年をとってカラダが死んだ後も、天国で永遠に

幸せに生きることができます。これが永遠の命です。昔、ユダヤの国では、罪を犯す度に、それを赦していただくために、神に動物の命をいけにえとしてささげていました。しかし、2000年前に生まれてくださったイエス・キリストが、十字架でいけにえとなってくださったので、全人類のすべての罪は完全に赦されました。—ここでメッセンジャーは、全力で十字架を語りましょう—

クリスマスは「神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わ」してくださったことです。神の子キリストを信じれば、私たちの罪は赦され、真っ白でピカピカの心になり、天国行きのキップがもらえるのです。これが「救われる」ということです。10節にあるように、私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛してくださり、御子を遣わしてくださったのです。イエスがこの世に遣わされたのは、神の一方的なあわれみの愛によるもの、つまり、神からの究極のクリスマスプレゼントです。あなたは、この永遠の命というプレゼントを受け取りたいですか？

☞ はじめて教会に来たお友だちに、「罪」について気づかせるための2つの質問：Q1「お父さん・お母さん・先生からウソをつくように教えてもらったことがある人は手を挙げてください」（いない）→Q2「今までにウソをついたことがある人は手を挙げてください」（全員）。だれにも教えてもらっていないのに、ウソをついたり、意地悪をしたりしてしまうのは、私たちにはじめから罪の性質があるからです。神から離れて、自分勝手に生きることの罪、その罪の結果として私たちはウソをついたり意地悪をしてしまったりするのです。

□ポイント3 神さまが私たちを愛してくださるように、私たちも互いに愛し合いましょう(11節)

クリスマスに、神は私たちに大きな愛を示してくださいました。私たちが救いたいという強い思いで、神がご自身の身分や命をもかえりみず犠牲を払ってくださったこと—クリスマスは神の愛そのものなのです。これほどまでの神さまの愛を受けた私たちは、もう罪を犯して神を悲しませてはいけません。イエスの命令どおり、互いに愛し合うべきです(ヨハネ13:34-35、15:12、15:17)。ひとりひとりみんなが、ありのまま愛されているのです。イエスの命と引き換えに買い取られたほどに、価値があり、大切な存在なのです。神さまが私たちを愛してくださったように、自分から相手を赦し、犠牲を払って助け合いましょう。神は目に見えませんが、私たちが愛し合うなら、それによって、あなたの家族やお友だちが、神の愛を見るのです(12節)。

□結論 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました—これがクリスマスに示された神さまの愛です。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1: まだイエスさまを信じていないお友だちは、イエスさまを信じて、永遠の命というプレゼントを受け取りましょう。あなたにとって、今年が本当のクリスマスとなりますように。信じてみたいと思うお友だちは、教会の先生と一緒に祈りをしましょう。まだよくわからないというお友だちは、続けて教会に来て、聖書のお話をもっと聞いてみよう。

例2: イエスさまを信じているお友だちは、クリスマスに示された神さまの愛に、もう一度心から感謝しましょう。まず、心をつくして神さまを愛し、そして互いに愛し合いましょう。

例3: クリスマスはパーティーやプレゼントの日ではなく、永遠の命に関わる大切な日だということを、みんなに伝えましょう。クリスマスにどんなステキなものをあげるより、究極のプレゼントのことを伝えれば、きっとみんなに感謝されるよ！